

自 2025年4月 1日
至 2026年3月31日

2025年度 事業計画書

公益財団法人ハーモニィセンター

目次

はじめに	1
1. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の運営	2
1-1 ポニーキャンプ®・野外体験キャンプ・HAC	
1-2 カウンセラーの募集とトレーニング	
1-3 移動動物教室	
1-4 蓼科ポニー牧場	
1-5 相馬ポニー牧場	
1-6 小貝川ポニー牧場(小貝川三次元プロジェクト)	
1-7 新拠点整備に向けた取り組み	
2. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の受託管理	5
2-1 碑文谷公園こども動物広場(指定管理・指定期間5年の2年目)	
2-2 水元スポーツセンター公園子供動物広場(受託・1年契約)	
2-3 相模原麻溝公園ふれあい動物広場(指定管理・指定期間5年の2年目)	
2-4 板橋こども動物園(指定管理・指定期間5年の1年目)	
2-5 上千葉砂原公園ふれあい動物広場(1年間の特命随契)	
3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及	8
4. 川べり環境の整備及び活用	9
5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進	9
6. 社会教育に関する調査研究の推進及び研究成果の普及	10
7. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信	10
7-1 機関紙「THE HARMONY CENTER」	
7-2 WEB サイト・SNS の運用	
7-3 パンフレット・チラシの活用	
8. 各種セミナー等	11
9. 法人運営にかかる業務	11
9-1 職員等の研修	
9-2 会議等の実施	
9-3 運営体制強化に向けた取り組み	
9-4 他団体との連携等	
9-5 日常法人事務	
【資料】ハーモニセンター中期計画 2024-2028～RIDING FOR ALL をさらに広げる～概要	13

はじめに

ハーモニーセンターの2025年度は、事業の枠組みに大きな変わりはないものの、次につながるさまざまな変化のある1年だと言えます。

キャンプでは、馬とかかわる3つの新しいキャンプを行います。木曾、宮崎、遠野というそれぞれに異なる地域性を持つ場所でのキャンプは、ポニーキャンプの可能性をさらに広げるものとなることが期待されます。蓼科ポニー牧場では、2023年11月に竣工した新宿舎に続いて進めている食堂・トイレ等のリノベーションが、年度の初めには完成します。これによって快適性が大きく改善しますが、ハーモニーセンターのフラッグシップ施設としての改良をさらに進めていきたいと考えています。自治体より受託運営する動物広場については、板橋こども動物園で5年間の新たな指定管理期間が始まります。独自性を発揮し、利用者に「ハーモニーセンターでなければならない」と思ってもらえる運営を目指します。昨年度、5年ぶりのドイツ青年受け入れから再開した日独青少年相互交流計画の直接交流ですが、この夏には日本青年がドイツを訪問します。紛争や対立を伝える閉塞感に満ちたニュースが多い今だからこそ、直接顔を合わせて対話する国際交流には大きな意義があります。

相馬ポニー牧場については、正式な閉場に向けた動きを具体的に進めることとなります。歴史と記憶のある場所を失うことは残念ですが、全体最適を考慮して経営資源を適切に配分しながら、新拠点開設に向けた取り組みも同時に継続し、Riding for All をさらに広げるための努力をし続けなければなりません。

また、2022年から検討されてきた公益法人改革が、2025年4月から実行されます。「民間も公的役割を担う社会」の実現を目指して、財政規律が柔軟化され法人の自由な経営判断が尊重されるとともに、更なる自律的なガバナンスの充実が求められるようになります。さらに、事業の透明性を高めるために、公益事業の社会的意義を測るインパクト測定の導入が望ましいとされます。この改革によって日々の運営が直接の影響をすぐに受けるわけではありませんが、改革のメリットを十分に活用できるよう、法人の運営体制強化に向けた取り組みを引き続き行います。

キャンプや動物広場、移動動物園などの場面で事業に参加している人々の姿を見ると、ハーモニーセンターがあらゆる世代に「思い出だけで胸が熱くなる体験」を提供しているのだと強く感じます。そして、その対象をじわりじわりとさらに広げ、Riding for All にもっと近づけていかなければと思います。

この実現には、事業を拡大したり、新しいことを始めたりするだけでなく、ときには、余力を得るために何かを手放す決断をする必要もあります。2025年度は、まさにそのように動く一年になります。活動の幅を広げながら、事業の取捨選択を着実に進め、応援してくれる人、企業、団体を増やし、公益法人改革のメリットを十分に活かした運営体制を構築していきます。

1. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の運営

1-1 ポニーキャンプ®・野外体験キャンプ・HAC

ハーモニセンターでは1972年に実施した第1回北海道とかちポニーキャンプに始まり、50年以上にわたり、夏休み等の長期休みを中心に子供達(5歳~中学校3年生)を対象としたキャンプを実施している。「自分自身の魅力に自信をもって生きていける人を育む」をテーマに、この年度も、今の参加者や社会にあった形にマイナーチェンジしながらキャンプを実施していく。

ポニーキャンプを中心に、家族を対象としたファミリーキャンプやスキー・登山・スケート・野外炊事などの野外活動キャンプといったさまざまなタイプのキャンプを実施。あわせて、昨年度に公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会の助成を得て下見を行った馬と関わりの深い地域の中から、木曾、宮崎、遠野の3コースを新規キャンプとして実施する(一般財団法人 Thoroughbred Aftercare and Welfare 助成事業)。

ポニーキャンプ	20 コース GW(2)・夏(9)・冬(3)・春(3)・週末(3)
ファミリーキャンプ	7 コース
野外体験キャンプ	11 コース 登山(1)・野外(2)・スキー(3)・スケート(1)・在来馬(4)
HAC/日帰り	適宜

主催キャンプ・HAC(代々木事業所担当分)

1-2 カウンセラーの募集とトレーニング

カウンセラー(青年ボランティア)は、子供達に対等な目線で向き合い、寄り添う、ハーモニセンターのキャンプをはじめとする活動に不可欠な存在である。ボランティア募集サイトなども活用しつつ積極的に募集を行うと同時に、十分な研修や交流の機会を設け、質の高い事業運営環境を構築する。研修については、カウンセラーが主体となって行うもの以外にも、職員や外部講師によるスキルや知識、新しい視野や考え方を提供できる研修会も行いたい。

国際交流、ホースセラピー、社会的養護など、カウンセラーたちの関心の対象は広がっている。そういったニーズに合う、視野を広げられるような、キャンプ以外の活動も少しずつ拡大していきたい。

カウンセラー募集	オンライン合同説明会の実施(5~6月に 6 回程度) 個別説明は随時対応 ボランティア募集サイト activo(アクティボ)での募集 大学・専門学校での説明会の実施・SNS を通じた告知
カウンセラー研修	蓼科宿泊研修(6月・11月・2月/計 4 回) その他、乗馬や野外スキルを身に付けるための日帰り研修を複数実施するとともに、プログラムの立案やリスクマネジメントなどの研修会も行う。

1-3 移動動物教室

移動動物教室は、ポニー乗馬やモルモット・ヤギ・ヒツジ・ウサギ等の小動物とのふれあいを学校・幼稚園・地域のイベント等に届ける事業である。近年は、大学等とのコラボ、商店街のお祭り、地域活性化の実験的なイベントや公園利活用を検討するイベント等に動物を連れて行く機会も増えており、単なるふれあいイベントの枠を超えた、地域コミュニティ醸成に資する非常に有効なプログラムという認知も広がってきている。

この年度も、自治体や地域活動を行う団体等に積極的に働きかけ、地域社会に与えるインパクトを理解してもらい、実施の機会を広げる。

また、一般財団法人 Thoroughbred Aftercare and Welfare の助成を受けて実施する移動動物教室については、東京都多摩エリア・長野県茅野市・神奈川県相模原市を中心に複数地域で年間を通じて展開する。

1-4 蓼科ポニー牧場

自主事業のポニーキャンプのほか、年間を通して乗馬レッスン、障害者乗馬レッスン、引馬を実施する。また、地元の子供達を中心とする「蓼科ジュニアポニークラブ(TJPC)」、不登校児のための居場所事業「ひだまりファーム」、ハーモニーセンターの子供達のための乗馬大会「ポニーライダーズカップ」、地域還元事業「牧場フェスティバル」などを実施する。このほかにも、カウンセラーOBや卒業生達が集う機会としてのOB会を受け入れる。

あわせて、法人で使用するポニーの育成、調教を行うほか、移動乗馬教室、スタッフ・カウンセラー研修等、ハーモニーセンターの馬事拠点としての機能を果たす。さらに、連携・協働協定を結ぶぽこあぼこの運営する「牧場ようちえん ぽっこ」に活動場所を提供し支援するなどを通じて、新たな平日利活用事業を作り出す。

牧場の環境整備については、2023年11月に竣工した新宿舎に続いて、助成金を活用した食堂・トイレ等のリノベーション計画に着手。老朽化していく施設を、より利用者が快適に過ごせる施設へ複数年かけて整備していく。蓼科ポニー牧場を「ポニーキャンプの場」「ポニーの供給基地」「実験的事業の場」として明確に位置づけ、その目的にかなう整備を進めていく。60年余の歴史に根ざした多様なステークホルダーの意見を広く聞き、協力を得ながら、ハーモニーセンターのフラッグシップとしての牧場づくりを進める。

主な事業	ポニーキャンプ 20 コース GW(2)・夏(9)・冬(3)・春(3)・週末(3) ファミリーキャンプ 7コース 蓼科ジュニアポニークラブ(TJPC) 2回/月(8月を除く) ひだまりファーム 毎週火曜日(長期休暇期間除く) ポニーライダーズカップ 10月18日(土)-19日(日) カウンセラー研修 5コース 牧場フェスティバル 11月15日(土)
------	---

1-5 相馬ポニー牧場

2011年の東日本大震災以降、事実上の閉場となっていた相馬ポニー牧場については、正式な閉場に向けたプロセスを進める。相馬ポニー牧場クロージングプロジェクトチームの企画・運営によるクロージングイベントを実施するほか、馬に関連する事業を行う団体への譲渡を含めた処置について検討・推進する。

1-6 小貝川ポニー牧場(小貝川三次元プロジェクト)

年間を通じて、乗馬レッスン、障害者乗馬、高齢者乗馬、引馬などを行うほか、川べりを散策する外乗も行う。一昨年度からのモンゴル騎馬トレッキングツアーの復活に伴い、馬場の外での速歩・駈歩体験の場として、河川敷を用いた騎乗練習も行う。また、水辺の楽しく安全なプログラム展開として、カヤック教室や川遊びなどのプログラムを提供する。

利用者については、学校に行きたくない・行けなくなった子供の活動の場として門戸を開くほか、ポニースクールかつしかのパートナーアニマル教室の卒業を迎えた方が乗馬を続ける受け皿としての役割も担う。

また、増加する移動乗馬の派遣基地としての役割を担っており、出張先で動じない、日常から馬に関わっていないカウンセラーでも安心して扱えるポニーの供給基地として、馴致調教にも力を入れる。このほかにも、都内の受託事業所の病気やケガによる不調の馬を受け入れるなど、馬に関するバックアップ施設としての機能も有する。

主な事業	引馬、レッスン、外乗、障害者乗馬、高齢者乗馬 ポニー教室・ポニープログラム団体利用 ポニー研修 ポニーふれあい 移動乗馬教室・ポニーステイ カヤック教室・川遊びプログラム キャンプ(日帰り) 河川敷管理
------	--

1-7 新拠点整備に向けた取り組み

ハーモニーセンターのプログラムを広く、多くの子供達に届けられるよう、中長期的視点を持って新拠点整備に向けた取り組みを進める。これには、キャンプを行える首都圏の施設や都市型の居場所機能を持った施設、既存の施設に新たな機能を加えたものなど、多様な形態が考えられる。また、法人のいっそうの安定した経営のために、長期的な視点に立って新たな施設運営受託の可能性を模索する。

いずれの場合も多様な資源(ノウハウや財源、人的資源)が必要となるので、ハーモニーセンター単独での運営に限定することなく、各拠点の目的に見合う効果が発揮できるよう、それぞれの地域で特定分野の知見・経験をもつ既存団体等との連携を積極的に進める。

2. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の受託管理

地方自治体等が設置した施設を受託運営し、各自治体と連携しながら、引馬や小動物とのふれあい、ポニー教室、動物クラブなどを提供する。合わせて、中学生等の職場体験、大学生・専門学校生の実習・研修の受け入れも行い、青年のキャリア教育への貢献を果たす。

2-1 碑文谷公園こども動物広場(指定管理・指定期間5年の2年目)

所管課	目黒区都市整備部道路公園課
面積	3,310 m ²
飼育動物	ポニー(7頭)・ウサギ・モルモット・イヌ・カメ
主な事業	ポニー乗馬(引馬) 小動物とのふれあい ポニー教室 個人:小中学生 団体:障害児者グループ、健常児者グループ、幼稚園・保育園・学校など 動物クラブ 医療的ケア児とその家族を対象としたスペシャルプログラム 各種受け入れ(ボランティア、中学生職場体験、大学生の研修など) 各種イベントの実施(ポニーまつり、ミニイベント) 碑文谷ポニーキャンプ

昨年度、5年ぶりに実施したポニーまつりは、規模を以前より縮小して実施したにもかかわらず、非常にたくさんの方に参加していただいた。この年度は、新たな協力団体を得るなどしながら、より多くの方に満足していただけるものにしたい。

また、昨年亡くなったリンに代わるふれあい犬の導入が予定されている。十分な馴致を施し、リンのようにみなさんに愛される存在としていきたい。

秋以降、2か月程度をかけてポニー園の建物の改修工事が行われる。この期間は、ポニーを他所へ移動するため、ポニープログラムを中止することになる。この間にも、なんらかの代替プログラムを用意するなどして、途切れることなく継続して関わってもらえるようにしていきたいと考えている。

2-2 水元スポーツセンター公園子供動物広場(受託・1年契約)

所管課	葛飾区教育委員会事務局地域教育課
面積	3,263 m ²
飼育動物	ポニー(12頭)
主な事業	ポニー乗馬(引馬) ポニー教室 個人:葛飾区在住・在学の小学生から中学生 団体:区外を含む中学生以下の団体

障害児乗馬教室(パートナーアニマル教室) 個人:葛飾区在住・在学・在勤の小学校1年生から20歳 団体:中学生以下の団体(区外利用可能だが中学生以上の新規受付は停止) イベントの実施 「区民感謝乗馬デー」(年2回)「こどもまつり」「クリスマスホースショー」「マラソン大会」等 移動乗馬教室 「葛飾区子どもまつり」(4月)「かつしかスポーツフェスティバル」(10月) 介護予防乗馬(65歳以上を対象とした乗馬教室)年間4期(1期3回)
--

この年度は、昨年度の第1馬場に続いて、第2馬場の改修が予定されている。昨年度は、馬場の整備作業をきっかけに、各イベントにおいて、多数の保護者の協力が得られた。この年度も同様に保護者の協力を得る努力をしながら、施設面やプログラム面においてより良い環境整備を進める。地域との連携も図って地域行事にも参加し、子供達に様々な体験の機会を提供し、保護者、地域と連携しつつ、子供達を見守り、育成する関係、環境を築き上げていきたい。

ポニー教室では、多くの子供達が安全に活動できるよう乗馬が出来る日と、出来ない日がある。乗馬以外の体操プログラムの改善を図り、いずれの日でも楽しく参加できるようにし、子供達の健康な身体と、健全な精神の育成に取り組んでいく。

2-3 相模原麻溝公園ふれあい動物広場(指定管理・指定期間5年の2年目)

所管課	相模原市環境共生部公園課
面積	15,000 m ²
飼育動物	ポニー(12頭)・ヤギ・ヒツジ・モルモット・リスザル・マーモセット・ミーアキャット シマリス・ハイラックス・シカ・プレーリードック・ウサギ・鳥類(クジャク・チャボ・オンドリ等)
主な事業	ふれあいコーナー 展示コーナー ポニー乗馬(引馬) ポニー教室(市内在住・在学の小学生から中学生) 障害児ポニー教室(市内在住・在学の小学生から中学生) 移動動物教室(市内施設及び団体対象) 動物フェスティバル(年2回) 動物クラブ ポニーボランティア

この年度は、指定管理者としての5年間の2年目となる。引き続き、積極的にプログラムの改善を進めるとともに、運営のよい部分を積極的に発信し、広く伝えていきたい。SNSも存分に活用し、「利用したい」と思わせる情報発信に努める。

ここ数年の懸案となっている引馬の利用者数については、スタンプカードの発行など新たな取り組みを

定着させ、人数の増加を目指したい。また、昨年度に形の整った、登校をためらいがちな児童・生徒のためのプログラムをより充実させ、社会教育的要素のある「居場所」としての役割を担える施設としての機能を強化していく。

さらに、自主事業に関しては、新たな移動乗馬教室の開拓を行って地域貢献を進めるとともに、ふれあい動物広場の存在もアピールしてゆきたい。

2-4 板橋こども動物園(指定管理・指定期間5年の1年目)

所管課	板橋区土木部みどり公園課
面積	本園 1,907 m ² 高島平分園 583 m ²
飼育動物	ポニー(9頭)・ヤギ・ヒツジ・モルモット・ウサギ・シカ・カメ・インコ・リス
主な事業	ヤギ・ヒツジの放し飼い、ふれあい ヤギの屋根のぼり、橋渡り モルモットのふれあい ポニー乗馬 引馬、親子乗馬、高齢者乗馬、障害者乗馬 ポニーの馬車 こども動物クラブ ポニー教室、親子ポニー教室 出張動物園、ふれあい 団体受け入れ 幼稚園・保育園・学校等の団体の受け入れ イベント開催(冬のミニイベント・ヒツジの毛刈り・公園まつり・ツリークライミング等) 板橋こどもキャンプ 施設や企業との協働企画 軽食やお土産の販売、キッチンカーの導入 公園清掃、樹木管理

この年度は、新たな5年間の指定管理の1年目となる。目標としている来園者数60万人を達成するために、さまざまな取り組みを進める。

平日のポニー引馬の対象年齢を3歳から2歳に下げるとともに、英語リトミックなど親子で行える新規自主事業も行い、より幅広い年齢に利用してもらえる施設とする。近隣の団体や企業、学校などとの協働によるイベントも積極的に開催し、それぞれの特色を活かして、子育て中のファミリーや不登校児、障害者、高齢者など、多様な対象の支援につながる取り組みを引き続き行っていきたい。

また、毎年閲覧数が伸びているWEBサイトやGoogleマップ、XなどのSNSといったインターネットメディアを存分に活用し、分かりやすく身近で親しみやすい情報発信を心がけ、より多くの方に利用していただけるように努める。

2-5 上千葉砂原公園ふれあい動物広場(1年間の特命随契)

所管課	葛飾区都市整備部公園課
面積	2,100 m ²
飼育動物	ポニー(5頭)・ヤギ・ミニブタ・ウサギ・アカリス・リスザル 鳥類(クジャク・セキセイ・オシドリ等)
主な事業	ポニー乗馬(引馬) 小動物とのふれあい ポニー教室(年3回/1回につき5日間) 動物クラブ 各種イベントの開催 移動動物教室(高齢者施設や盲学校など) 幼稚園・保育園・学校等の団体の受け入れ 中学生職業体験の受け入れ

この数年は、夏期に熱中症アラートが発令される日が多く、引馬やモルモットのふれあいなどのプログラムが中止となることが多い。そのような状況でも、毎日来てくれる、1日に何度も利用してくれる未就学児も増えている。また、動物を見に来たり、ポニーに乗って喜んでいる子供を見に来る大人も増えているので、この年度は、「また行きたくなる広場」をめざし、ニーズに合わせて楽しめるように工夫を施し、たくさんの方に来場していただけるよう努める。

昨年度、試行した東京都立農産高等学校の実習及び授業の受け入れを継続して行うこととなった。地域に貢献する取り組みとして、積極的に協力したい。

建物の老朽化が進んでおり、今後、建て替えの検討が始まることが予想される。計画作成の際に意見を求められても十分に対応できるよう、着実な運営を進めながら、地域のニーズ把握にも努めたい。

3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及

一般財団法人 Thoroughbred Aftercare and Welfare の助成を受け、東京都多摩エリア・長野県茅野市・神奈川県相模原市・栃木県宇都宮市を中心に、巡回ポニースクールを実施予定。実施にあたっては、単なる一過性のイベントとせず、地域コミュニティの醸成に役立てるよう、各地域の団体等とも協力して進める。

一昨年度から継続実施している、社会的養護下にある子どもを養育する里親家庭を対象としたファミリーキャンプを、この年度も、社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団の協力を得て実施する予定である。また、動物介在教育の特長を生かした、学校に行きづらさを感じる子供達の受け入れにも積極的に取り組むなど、児童福祉の分野での貢献も進めたい。

医療的ケア児支援法の施行を受けて需要が高まっている医療的ケア児を対象としたポニーとのふれあいについては、医療従事者の協力を得て、碑文谷公園こども動物広場で引き続き医療的ケア児とその家族を対象とする事業を行うほか、助成金を活用して動物広場外で同様の事業を行うことを検討している。

4. 川べり環境の整備及び活用

小貝川ポニー牧場の脇を流れる小貝川の河川敷を引馬や外乗、カヤック教室、川遊びの場として、また馬の放牧場など体験の場や馬の飼育管理の場として活用を続けている。

川べり環境の整備については、牧場開設当初より藤代まちづくり協議会と共同してフラワーカナル(河川敷の約1.1kmにわたる花壇)の整備や草刈りを行ってきたが、前年度に藤代まちづくり協議会が解散した。現在は、小貝川の自然環境の中で、水・陸・空の3次元を活用し、大人も子供も、障害者も高齢者も時間と場所を共有し、遊び、学び、交流するという趣旨の「NPO小貝川プロジェクト21」の一員として、小貝川事業所の職員とポニー教室の参加者、その保護者が協同でポピー・コスモスの種蒔きや河川増水後のゴミ拾い活動を実施。近年の異常気象によって、線状降水帯がどこで発生するか分からない状況があるので、遊びを通じて川の危険と楽しさについて学び、安全を確保しながら親しんでもらいたい。

また、彼岸花の株分けを行い、2,000株を超える花が一斉に咲く様子は見事で、徐々に認知度を増しており、コスプレを楽しむ方々の撮影スポットとして需要が伸びている。

前年度に再開したEボート大会では、ポニー教室の参加者とその保護者から50名を超えるエントリーがあるなど盛況で、地域住民との交流の機会として引き続き実施する。

主な事業	引馬・外乗 カヤック教室・水遊び ゴミ拾い・草刈り・水辺の体験教室 フラワーカナル種蒔き・Eボート大会
------	--

5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進

一昨年度に風の旅行社と共同で4年ぶりに実施したモンゴル騎馬トレッキングツアーは好評を得たため昨年度は2コースを設定し、参加対象をキャンプや動物広場等、ハーモニイセンターに日常的に関わる子供達に広げて実施した。この年度も引き続き2コースを実施予定で、今後は大人向けコースの実施も模索する。

日独青少年相互交流計画は、昨年度、5年ぶりにドイツ青年の受け入れから直接交流を再開、ドイツから15名が来日し、日本の青年達との交流を楽しんだ。今年度は、夏に日本青年の訪独を6年ぶりに実施する予定である。

モンゴル騎馬トレッキングツアー	Aコース 8月2日～8月7日 Bコース 8月16日～8月21日
日独青少年相互交流計画	日本青年ドイツ派遣 8月11日～25日

6. 社会教育に関する調査研究の推進及び研究成果の普及

(公社)全国乗馬倶楽部振興協会、JRA日本中央競馬会、馬という領域ネットワーク、その他のグループが乗馬の効用、馬の活用状況に関連して実施する研究集会、調査、交流会などに積極的に参加・協力し、ハーモニセンターが蓄積してきたノウハウ、成果等を積極的に発信すると共に、参加職員の資格取得、研修、情報収集にも努める。更に、これらのネットワーク、そしてカウンセラーOB・OG、ハーモニセンターの卒業生らのネットワークを活かし、在来馬の保存・活用に関連するプログラムの展開も一層進めたい。

また、ハーモニセンターの活動への理解を得て、広げていくためには、活動の効果、意義を測定、言語化し、伝えていくことが不可欠である。大学などの教育機関や医療・福祉の関係団体や、自治体や商工会等の地域コミュニティづくりの社会実験へのプログラム提供など、さまざまな課題に直面する子供達の支援を行う団体等との協働をしながら、調査研究に積極的に取り組みたい。

7. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信

キャンプをはじめとするハーモニセンターの活動を広く知ってもらうために、機関紙、WEBサイト、ブログ、SNS等を活用して、情報発信を行う。

あわせて、運営基盤の強化につながる広報のあり方を検討し、積極的に変革を進めたい。

7-1 機関紙「THE HARMONY CENTER」

会員、関係者、公的機関等を対象に、機関紙「THE HARMONY CENTER」を月刊で2,000部発行する。まだハーモニセンターを知らない多くの人に活動を広めるため、配布機会を増やし、SNS全盛の時代にあっても、紙を媒体とした情報発信を続けることで、“ハーモニセンターを必要とする人”に届けることを目指す。

また、「活字離れ」が進む昨今にあって、新たな読者を獲得し、紙媒体のメリットを活かせるような紙面づくりを進めたい。

7-2 WEBサイト・SNSの運用

キャンプなどの最新の情報を伝えるとともに、定款や決算など開示情報を掲載する場としてWEBサイト(<https://harmonycenter.or.jp/>)を運用。あわせて、より手軽に情報を発信し、情報交流を図るツールとして、ブログ、SNS(Facebook/Instagram)を運用する。

SNSについては常に新しいツールが提供されているため、対象や提供する情報により合致する新しいものも積極的に活用する。

7-3 パンフレット・チラシの活用

各事業所やイベント会場など、紙媒体が有効な場面は依然として多くある。必要に応じて内容をブラッシュアップし、有効活用を進める。

8. 各種セミナー等

過去キャンプ参加者やカウンセラーOB/OGにも子育て世代が多くおり、子育てに対する不安や悩みを抱えているという声を数多く聞く。そこで、これらの不安や悩みの解消につながるような講演会やイベント、他団体と連携して、子育ての改善につながるような事業を展開したい。この年度も、過去4回好評を得ている横浜市保育施設・りんごの木柴田愛子先生の講演会の実施を予定している。

また、前年度に行った「馬の多様な利活用を推進する講習会(日本中央競馬会特別振興資金助成事業)」も継続実施し、ポニーを用いた活動についての啓発、振興を進めたい。

9. 法人運営にかかる業務

9-1 職員等の研修

よりよい事業展開が行えるよう、担当業務、経験年数等に応じたさまざまな研修を年間を通じて実施する。また、国内外のセミナー、研究大会等に積極的に職員を派遣し、情報の収集・発信に努めるとともに、関連団体等との関係づくりを進める。合わせて、業務に関連する資格等の取得を推奨する。

9-2 会議等の実施

法人運営に必要な諸会議を適宜実施する。

- (1) 評議員会 2025年6月
- (2) 理事会 2025年5月・2025年6月・2026年3月(必要に応じて臨時理事会を実施)
- (3) 運営会議 年15回程度
- (4) 施設長会議 年11回程度

9-3 運営体制強化に向けた取り組み

将来にわたって良質な体験を提供し続けるだけでなく、さまざまな社会課題に対応した事業が展開できるよう、ファンドレイジングや新たな施設運営受託に向けた調査など、中長期的視点に立った運営体制強化の取り組みを行う。特に2025年4月には公益法人制度の変更があり、自律的な経営判断が尊重されるとともに、更なる自律的ガバナンスの充実が求められるようになる。より効果的な公益活動が行えるよう、公益法人会計基準変更への対応含め、滞りなく対処したい。

9-4 他団体との連携等

関連団体への役員・委員・指導者等の派遣や、運営協力を積極的に行い、馬の利活用や青少年教育の向上に貢献する。また、大学や専門学校等の教育機関の実習生受け入れや授業の提供などを通じて、実践を伴う教育への貢献を積極的に進める。

役員等派遣	公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会・NPO法人自然体験活動推進協議会 NPO法人日本Gボール協会・一般財団法人日本ユースホステル協会 一般財団法人陽だまりハーモニー・馬という領域ネットワーク 長野地区乗馬倶楽部振興会 等
運営協力等	認定 NPO 法人ハーモニカレッジ・任意団体ぽこあぽこ(牧場ようちえん ぽこ) 馬という領域ミーティング・公益社団法人日本キャンプ協会 大都市圏動物園事務主管者会議・NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会 河川流域交流会・馬を用いたセラピー療育研究プロジェクト 一般財団法人日本ユースホステル協会(馬の楽校) 認定 NPO 法人ブリッジフォースマイル・麻布大学(連携協定) 等

※ このほかに、教育機関の実習生受け入れ等を行うほか、依頼を受けて馬の調教や乗馬指導に関する指導者を派遣する。

9-5 日常法人事務

円滑な法人運営のため、以下の事務を滞りなく行う。アウトソーシングや新たなシステムの導入も積極的に進め、各事業所の負担を低減するとともに、効率的な運営を目指す。

- (1)事業執行管理
- (2)経営管理
- (3)人事労務管理・職員研修
- (4)会員管理
- (5)寄付金・助成金事務
- (6)渉外事務
- (7)庶務

【資料】

公益財団法人ハーモニセンター中期計画 2024-2028～Riding for All をさらに広げる～概要

取り組みの基本指針

私たちが提供する「思い出すだけで胸が熱くなる体験」は、単に楽しい思い出というだけでなく、その人がつらい思いをしている時にも心の支えとなるものです。すべてを投げ出してしまいたくなる時に踏みとどまらせることのできる、暖かい思い出や人のつながりをすべての人に届けることが、「Riding for All」の究極の目標です。

「Riding for All」をより広げるために、提供する体験の質をより高める、そしてそれを支える組織の強靱化と持続性を高める取り組みを行います。

取り組み

① より広い地域展開

- ・ 数年をかけて宿泊を伴うキャンプが行える事業所の開設を目指します
- ・ ハーモニセンターの得意分野を生かせる施設の運営受託に積極的にエントリーします

② より多様な対象に向けた事業展開

- ・ 医療的ケア児や登校をためらいがちな児童・生徒、社会的養護下にある子どもなどを対象としたスペシャルニーズプログラムに、専門家や関係団体の協力を得ながら取り組みます
- ・ 高齢者や、現在、直接の事業対象から外れている高校生を対象とする事業を検討します
- ・ 牧場の価値を高める「牧場ようちえん ぽっこ」の事業運営をサポートします

③ 青少年教育の発展への寄与

- ・ 日本の青少年教育全体の振興につながる取り組みをします

④ 人的・財務的基盤の強化

人的基盤

- ・ 職員が必要なスキル・ノウハウを身に付けられるよう支援します
- ・ 長く働きたいと思える労働環境の構築を進めます
- ・ 持続性のあるカウンセラー制度を保ちます

財政的基盤

- ・ 事業投資や職員の待遇改善につなげられるよう“稼ぐ力”の向上を進めます
- ・ ファンドレイジングを含む“支えてもらう力”の向上を進めます

ガバナンス強化

- ・ 計画推進に必要な事務局機能の強化を進めます
- ・ 信頼される組織として必要な良好なガバナンスの維持、改善に努めます

中期計画で示したのは、より多くの人にハーモニセンターの良質なプログラムを届け、「Riding for All」に一歩でも近づけようという意志です。その実現には、新しいポニー牧場や動物広場も必要ですし、そこで汗を流す職員やカウンセラーも必要です。全体としては、組織の拡大を志向していると言えます。

「拡大などできるのか？」という声もあるでしょう。しかし、現状維持をするためにでさえ、年間数パーセントの成長は必須です。いずれにしても変化は不可欠なのだから、より多くのプログラムを、それを必要とするより多くの人たちに届けられるよう挑戦したいと思います。ハーモニセンターのよさをきちんと伝えることができれば、私たちのプログラムに参加したいという人はもっと増えますし、応援してくれる人や団体・企業ももっと見いだすことができるでしょう。目標は決して無謀なものではありません。

とは言え、その実現はたやすくはありません。社会や制度の変化に合わせてアップデートしながら、スキルを継承し、プログラムの質を維持向上させる。ハーモニセンターのよさを表現し、「支えてほしい」ときちんと伝える。職員一人ひとりが安心して働ける環境を整える。こういったことを同時に進める必要があります。どのタイミングでなにができるのかを見極めながら、各年度の事業計画にはより明確なアクションプランを示し、着実に進めていくことが求められます。

たくさんの方々の努力や工夫が必要となりますが、多くの人に「思い出だけで胸が熱くなる体験」を提供し、そのことを私たち自身も楽しみたいと思います。そして、私たちの活動に多くの人に参加してもらうことで、「ハーモニセンターが大好きだ」という人が増え、次の活動の担い手（職員・カウンセラー等）、支え手（支援者・協力者）を生み出していくという好循環を作っていきましょう。

公益財団法人ハーモニセンター
代表理事 村松真哉

これは「公益財団法人ハーモニセンター中期計画 2024-2028 ～Riding for All をさらに広げる～」より一部抜粋、編集したものです。計画全文は、公益財団法人ハーモニセンターWEBサイトでご覧いただけます。